



発行所
曹洞宗青年会
〒105 東京都港区三田
2-5-2 曹洞宗青年会内
電話 454-5411 内
TEL.03-454-5411 内

- 青年宗侶のエネルギーを結集しよう
- 社会的価値ある活動をしよう
- 青年宗侶の自覚を促そう
- 地域における活動の連携を深めよう

青年宗侶のエネルギーを結集

大本山永平寺

二祖国師大遠忌奉讃青年大会

九月十六日福井市結集を!!

み跡したいて只一筋
大遠忌奉讃、来る九月十六日全曹青永平寺結集を!!

全曹青も「二祖様」の「孝順心」の御威徳に浴す勝様に臨み来る九月十六日、「全曹青永平寺結集」を企画し、現在着々とその準備を開始している。会員諸師の「孝順心」を広く喚起して一人でも多くの参加を切望してやまない。

全曹青も、若いエネルギーを結集し、奮足してから六年目を迎える。その間、当初は組織作り専心、全曹青の意義を理解して頂くべく努力してきた。しかしながら、この間の消息は、必ずしも充分その成果が顕著であったとは思えない。この点は反省すると同時に、次期へのステップとして、更に会員諸師の深いご理解とご支援をお願いする次第である。

九月十六日、全曹青大会開催
来る九月十六日(火)「大遠忌奉讃全曹青永平寺結集」

「二祖様の膝下で報恩」ををし、全曹青の諸行善行を営み、昨年来より準備して参った「写経納経法要」(全曹青托鉢)「永平寺の四季の諸行善行を完成」してその成果をあげて通過していく所存である。

一、写経納経法要
写経の功德は申すまでもなく、全曹青は「拓かれた寺院の姿」を如何にすべきか、真剣に取り組み諸師と共に歩んで来た。その中で、共進会を中心にして、写経もその教化事業の中に取入れ、一寺一会場、写経運動を展開すべく始動している。全曹青の諸行善行の特長は、年間報恩の諸行善行を合わせた独自のアイディアを生かして写経を行なうところにある。たゞは成人式写経でその成果をあげておられる会員もある。ちよつとした心配りで大きな成果をあげ、正に「寺院の拓かれた姿」になり得る教材としてもご利用頂きたい。また写経の済んだ後、経本としても使える。会員諸師の中に生進「百万巻」写経の願心を発する人も出てくるであろうという大いなる期待を含め、九月十六日納経法要を本山で厳修する。この托鉢の輪が広がる運びとなった。願わくは、この写経運動が水く続けられんことを。

一、「浄行」あなたの愛とまごころと
善徳の行願に燃えた全国、托鉢運動である。至心にこの行を修するならば、それだけでも「孝順心」を実践することであろう。如法の姿で托鉢をする意義は、計り知れないと思う。自ら汗を流して報恩行の実践こそが、青年宗侶に求められた一つの課題ではないだろうか。行の仏法を標榜するならば、托鉢も然りである。そしてこの浄行が、社会に寄与するものが出来るならば、こんな有難いことはない。口では、如何にも可能性も論じ、また批判も可能である。この「罵詈雑言」の世界から芽生え願心こそが、青年宗侶にとって、また宗家宗侶にとって大切な「道心」ではないだろうか。この善徳行を喚起することが、全曹青の大本前提であろう。

この托鉢道を修行するところに、更に道心の輪が広がる運びとなった。願わくは、この写経運動が水く続けられんことを。

二祖国師大遠忌に因み、この勝縁をいっしんな形で奉讃し、永く後々まで残しておきたいという気持ちと、この大遠忌をより多くの人々にも接して頂きたいという所念で交響曲「永平寺の四季」作成へと運んだのである。大自然の中に、七百十年來帳々と変わることのない姿を、こんな形で表現することも不可能であろうけれども、只「宗家宗侶」の念に他ならない。

一、九月三日、魂雪の消えぬ永平寺に作曲の藤敏郎先生、作詞家の藤田敏男先生にお越し頂き、その取材も完了し、九月十六日発表。そしてレコーディングと筆を進めおられる。この日に向けて、私たちが全曹青も総力をあげて邁進努力いたす所存である。この日々の行願の中に「道心」のあることと信じて。

(会長 佐藤泰博)



曹洞宗青年会が発足して早や五年有余の歳月が流れ、当時、地方にあって全曹洞宗青年会の誕生を心から喜び、深い関心と期待を持っていただいていたこと、今回、教団部長に就任し、一層深い因縁を結ぶことになった。

私なりに青年会への期待と希望をいたして就任したわけであるが、周囲の状況のあまりのきびしさに驚き、あらためて責任の重大性を痛感して、青年会自身も十分青年会の活動に直接かか



全曹青に望む

青年会とはいつても、現在曹青の人達は決して一般社会通念の青年層というより、既に大成した宗侶であるが、若さの中にいかに

わつてきた人達、また外聞からながめ見守ってきた方達には、それぞれの考え方

それそれすぐれた考え、発想がある。それらはすばらしいことであり、勇気を保持して邁進せねばならない。しかし反面、高祖大師が

た大慈師宗家の修学のあるを語られ、かなりきびしい批判を加えられている。これを参考に、各自脚跡下、高祖道の純一無雜の道に添い得ているか否か、脚下照ら、更に百尺竿頭進一步されるよう期待する。

特に本年は、大本山永平寺二祖国師大遠忌奉讃の義興師七百回大遠忌奉讃の青年大会等、諸々の計画がなされていくが、これらの行事が無事円成されるよう祈念し、併せて曹洞宗青年会会員各位の一層の道心堅固と法体健康をねがって止まないものである。

山口県のカンボシア難民救済活動は、めざましく、しかも迅速だった。山口県のみで三千戸、当り千戸の独自の封鎖を県下の寺院に配布した。一食(一院)に配布された運動は、在家の活動家を入れた運動にも展開されボランティアとしても既に二十人近くを送っている。

曹洞宗難民救済会議は、一月に設立され、二月三日に国連U.N.H.C.Rより正式なボランティアチームとして、日本の民間団体では二番目、仏教界では曹洞宗のみという活動になった。駄馬も出て活躍となり、国際舞台上に踊り出したのである。一方、今今日の難民救済活動が宗門を挙げた活動になり得ているかといえは、否と答えてを得ない。ボランティア一つ取っても、山口県青年会と数人の心も態だ、募金活動も円満に筒を配ることで、相手に肩の荷を預ける消極的な姿勢も指摘出来る。「もし身に苦有れば、悪魔の衆生を想いて、大悲心を起こすべし」の経文が泣いている。飢えに苦しむ難民の現況放映をテレビで行っている時、三才の子供が台所から一片の餅を持って来てテレビ越しにその餅を差し出したという。三才の子にして、異郷の人間の苦しみを感得する三才の童子、是を知ると雖も、七十の老翁は行い得ず。符合は余りに悲し。難民キャンプで曹洞宗の必死に支え、耐えている母々の青年宗侶の同胞があるのだ。彼等の努力を見殺しにしてはならない。それは、僧侶としての最後の持参をのだから。(H・N)

就任にあたって

朝日泰峯

「正法眼識自証三昧の巻や、弘教の巻の中で、或從縁の或從縁の如何に大切であるかを説示され、とわけ自証三昧の巻では、曹青が人に勝れ、結論に通じ



建設水清

社長 野地 紀一

本店 東京都中央区京橋2丁目16-1
支店 名古屋・大阪・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌
仙台支店 常務取締役支店長 石井 泰男
仙台市木町通り1丁目4-7

難民救済運動の難しさ

ボランティアの報告書より

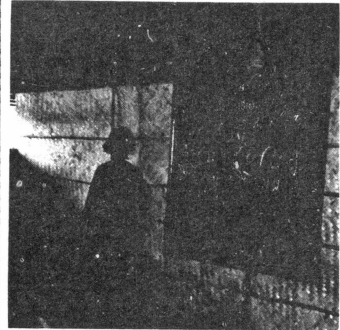
菩薩の行願

救済運動と宗侶の役割

「日本人と難民」

我々にとって「難民」という言葉は何か海の向こうの遠い話のように思えてならない。現在の日本では慈善物語に

出てくる「出エジプト記」のような難民、流民といったのは想像することも無い。と表面的には安んじてしまっている。しかし、「人預り」の内包する矛盾ともいべきこの問題は、あたかも地殻変動のように無常であり、時として大きな地震があるように起こっている。起きているのである。組織され強大な力を持つ者が勢力を伸ばすために他を侵略することは、むしろ自然なことかも知れない。しかし、その経過があまりに異状、且つ短期間に行われ、加えて他に見られない程の複雑さを持っていることである。これらの諸点は「難民問題」を考ふる上で、充分に認識されたい。



流入して来た人々は、既に百万人を越えており、周辺には二百万を越えると言われている。流亡の民が点在している。タイ国と国連の難民対策室との協力によってタイ領内に設置された難民キャンプは二十余にも及び、その中に収容されている人々は当初飢えと病気で次々と生命を失っていった。現在サシ指して動き始めている。

ケオキャンの近くの寺院に埋葬されている難民の霊は、六千人を越えるといわれている。三万人を収容されている現在のサオキヤン・ンブ・アムに一人が落命したことになる。まさにそれは悪夢としかいえない。しかし、こうした事態は各方面からの援助によって少しづつではあるが改善され、現在では生命を維持するために必要最低限の条件は揃い、キャンプ内は落ち着きを取り戻し、小規模ながら自給自足(自立の道)を目指して動き始めている。

「難民の流入が巻き起こす様々な波紋が、実はタイ国内を騒然とさせている点である。その端的な例はタイ語の新聞には「難民は困ったものである」の一点張りであった。一方、英字新聞は各国のボランティア活動や難民の状況を報告するに留まらず、こうした側面を我々ボランティア活動が推進する者は充分認識すべきであろう。難民救済への世論が盛り上ったのは昨年十二月頃であった。何故我々には救済活動を押し進めなければならぬのか……他にやるべき事も多くあるのに……それは「利行は一法なり」即ち菩薩の行願」なのである。この運動を通して、僧侶としての活きた使命を再度かみしめたいと考えている。

青年会の大連奉議事業を実施するにつき、そのはじめより抱きつづけているものに、交響曲「永平寺の四季」の作曲、発表奉納演奏会開催の夢があります。我々の日々常に離れずあるものに、永平寺における、苦しくも充実した日々と我々をなぐさめ、はげましてくれた四季折々の自然への想い出があります。この我々の内よりのイメージとプロの作曲家、作詞家による外よりのイメージをミックスし、交響曲として表

「日本人と難民」という言葉は何か海の向こうの遠い話のように思えてならない。現在の日本では慈善物語に出てくる「出エジプト記」のような難民、流民といったのは想像することも無い。と表面的には安んじてしまっている。しかし、「人預り」の内包する矛盾ともいべきこの問題は、あたかも地殻変動のように無常であり、時として大きな地震があるように起こっている。起きているのである。組織され強大な力を持つ者が勢力を伸ばすために他を侵略することは、むしろ自然なことかも知れない。しかし、その経過があまりに異状、且つ短期間に行われ、加えて他に見られない程の複雑さを持っていることである。これらの諸点は「難民問題」を考ふる上で、充分に認識されたい。

永平寺二祖国師大遠忌奉議青年大会
交響曲「永平寺の四季」発表会
現し、奉納演奏会を開き、同時にそれをレコードとして、高祖大師、二祖国師より「永平寺の四季」の作曲、発表奉納演奏会開催の夢があります。我々の日々常に離れずあるものに、永平寺における、苦しくも充実した日々と我々をなぐさめ、はげましてくれた四季折々の自然への想い出があります。この我々の内よりのイメージとプロの作曲家、作詞家による外よりのイメージをミックスし、交響曲として表

へいつの日にか、永平寺のイメージ曲として定着することを夢みて、
奉議事業実行委員長 佐野 令彬

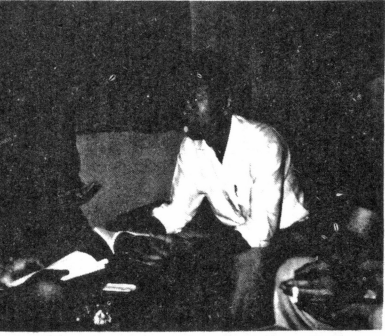
- 山形 榊山 禿亮
山形 結城 俊道
愛知 大田 善久
東京 黒田 純夫
新野 横山 真澄
北海道 仲川 正純
岩手 報恩 泰山
茨城 日立市精神科
山形 深野 康成
静岡 内山 秀三
茨城 大塚 元清
秋田 大塚 元清
兵庫 佐久間 広見
岐阜 五島 弘道
愛知 清水 まさ道
山口 中根 昭典
山口 谷地 元清
東京 内藤 昭典
東京 谷地 元清
加藤 昭智

- 京都 廣峰 龍雄
埼玉 乾 徳寺
埼玉 万年 寺
埼玉 日立市精神科
島根 弱者育成会
愛知 滝川 武男
千葉 葛原 利生
北海道 小笠原 隆夫
福島 荒木 哲英
愛知 光英 明法
愛知 二青年会
京都 佐賀 青年会
山口 京都 青年会
山口 谷地 元清
山口 星野 道雄
茨城 大塚 元清
同 日立市精神科
埼玉 弱者育成会
埼玉 養寿 院
同 梶田 スマ
四月三十日現在、敬称略
合計金額 一六四件
金、二二五、二二二円

難民救済義援金寄託者芳名録②

事務局 日誌

- 八月八日 研修委員会、事務局会
● 八月十六日 広報委員会、二祖国師奉
● 八月十三日 親家内
● 四月十四日 理事会開
● 五月一日 研修、事務局集い打
● 五月十六日 五月十日
● 五月十八日 第二次北陸地方集開
● 五月二十五日 曹青通信第十五号発刊
● 五月二十八日 事務局会
● 五月二十九日 理事会、評議員会
● 五月三十日 昭五十五年度総会
● 春期中央神集い開



日本建築家協会会員
株式会社 真島建築設計事務所
代表取締役1級建築士
真島 隆
〒151 渋谷区笹塚1-47-2-415
TEL 03-460-6528
長野分室一長野市大字西和田三重南352-5
TEL 0262-44-7770

猪苗代湖を一望に眺める
表磐梯高原の開発
磐梯ヴィラ
株式会社
取締役社長 中村 太事
取締役専務 鈴木 栄一
東京都新宿区住吉町20番地
TEL. 03-353-8191